



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	普及教育の方法
Author(s)	古謝, 瑞幸
Citation	琉大農家便り(98): 7-8
Issue Date	1964-01
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20722
Rights	

普及教育の方法

普及教育は校外教育ともよばれ主に農村人を対象に、農業と家政の分野の向上を目的として行われる教育事業である。普通の学校教育と異なる点は ①特定の教室というのがない ②年齢に制限がない ③誰でも学習者になれる ④あくまでも自主的で義務的な規制がないなどである。

このように種々の条件の異なった人々を対象とする教育は決してなまやさしいものではない。したがって種々の普及教育の方法が用いられる。

普及教育の方法はよく商品の販売術になぞらえられる。それは普及員はアイデアを売るという仕事の性質からきたものである。そして秀れたセールスマンの商品やサービスの販売術は普及員にも共通するからである。即ち物或いは知識・技術を売るためには高度の技術と種々の方法(手段)が要求される。またこれらの売込みは決して強制してはならず、あくまでも相手の自主性を尊重してかからねばならない。

しかし、両者の目的は根本的に異なっている。即ち、セールスマンは自己の利益を目的とするが、普及員の場合は公共機関によっておこなわれる教育事業を通じて、個人に態度の変化を生じせしめるのが目的である。

普及方法の用い方、又は普及技術は直接に仕事の能率に影響する。これは指導者が普及員であろうと、専門技術員であろうと、また学習者が農業者であろうと主婦であろうと、或いは少年少女であろうとすべてに共通するものである。適切な普及方法又は教材を選ぶということは決して簡単ではない。普及方法の研究は普及計画を推進していく上に重要である。畑で鋤を握る農業者、家で家族の生計をみる主婦は種々な希望や興味をもっている。彼等は教育程度、年齢、性格、学習反応などの点で種々と差があり、また、実施中の普及計画は多岐にわたっているからである。

では普及計画を推進していくために用いられる普及方法にはどんなのがあるかそれを分類し、実施の方法について例をあげて述べてみよう。

普及方法の分類

普及方法はいくつかの異なったものに分類されるが、ここでは対象人数と形式による二つの分類法を取扱うことにする。

A 対象人数による分類

① 個人対象：

農場および家庭訪問
普及所訪問
電話による応答
結果の演示
個人的な通信

② グループ対象：

方法の演示会
結果の演示会
指導者講習会
講演会
こんだん会
現場視察
スライド及びムービー映写会
フランネルボード

③ 大衆 (Mass) 対象：

普及冊子
サーキュラレーター
新聞
ラジオ
テレビ
展示会
ポスター
リーフレット

B 形式による分類

① 文書：

普及冊子
新聞



農家を訪問し 家庭菜園について主婦と話す生活改良普及員(手前)

サーキュレーター
リーフレット
個人的通信

② 言語：

あらゆる種の会合
農場及び家庭訪問
電話の応答
ラジオ
普及所訪問

③ 視覚：

結果の演示
展示会
ポスター
ムービー
スライド
図表
掲示板

両方に通じるもの

方法の演示会
結果の演示会
テレビ
ムービー
図表
フランネルボード
その他

(実施の例) **農場及び家庭訪問**

農場及び家庭訪問は種々の目的によく用いられる普及方法の一つである。農場又は家庭の問題について助言してもらうために相手の要請に応じて行う時もある。また普及活動の協力者を求めて行う場合もある。

農場及び家庭訪問は非常に効果的な普及方法であるばかりでなく、普及事業に欠く事のできない対人関係を樹立し、また、マスコミの機会に恵まれない人々に接近する方法でもある。

農業者、主婦、4Hメンバーの見地からすれば、普及員による訪問は、実際的問題解決の助言を求むる機会であり、普及員側からすれば、日頃指導している事柄が実際にマッチしているかどうかを見届ける機会である。

訪問によって得た情報は普及活動の基礎資料であり普及計画の骨子としての役割を果すので整理しておく必要がある。

農場及び家庭訪問は非常に効果的な普及方法であるが、普及員にとっては時間的に不経済である。特に琉球においては農改普及員は殆んどオートバイの機動力化が実現して問題はないが、生改普及員は大方がバスに頼っているので活動も自ら規制されるであろう。ちなみに年間の訪問回数を琉球と米国とを比較すると琉球では農改の71回に対し生改は約50回である。米国では農改の800回に対し生改はその約半数である。琉球の普及員の訪問回数が比較的少な

いというのは活動不足という訳ではなく、グループ指導、或いはその他の方法に重点をおき、更に前述の不十分な機動力のためであろうと考えられる。

※ **農場及び家庭訪問の実施の要点**

A 訪問の目的

- ①農場及び家庭の実態を把握する。
- ②指導助言する。
- ③他の方法で接することのできない人々に普及事業を認識せしめる。
- ④リーダー、演示者、その他の協力者の選出に協力する。
- ⑤対人関係を強化促進する。
- ⑥普及団体の強化をはかる。

B 訪問の計画

- ①訪問先に以前にも行った事がないかを調べる。
- ②必要な専門事項を準備する。
- ③時間と費用を節約するために部落におけるスケジュールをつくる。
- ④各家庭の実情に応じた問題解決の方法を考える。

C 訪問の実施

- ①愛想よく、親切であること。
- ②相互の意志の疎通に努める。
- ③興味をもたせ、実行意欲を起こせしめる。
- ④専門的なサービスをする。
- ⑤訪問先に明確な訪問目的の印象を与える。
- ⑥相互の時間の節約をはかる。

D 訪問結果の記録

- ①普及所の戸別家庭要覧に日付、訪問目的、サービス事項、追求指導の必要の有無などを記す。
- ②計画にもれたのはないか確める。

E 追求指導

- ①利用可能な普及冊子を送ってやる。
- ②メイリングリストに加えてやる。
- ③普及活動の催しに参加をよびかける。
- ④必要と認めたら更に訪問する。

最後に参考のために記したいのは農場及び家庭訪問は欠点もあるという事である。それは前にも多少ふれたように普及員の時間をとりすぎる。訪問時間、時期が相手の側から常に好都合ではない。心情として進歩的な家庭に立寄りがちだが、普及員の訪問を受けるとい事はどこの家庭にも一種のプライドであるのでその面も考慮する価値は十分にある。

(古 謝 瑞 幸)